

平成 24 年の大阪経済

－足踏み状態にあった大阪経済－

商工労働部（大阪産業経済リサーチセンター）は、府内の経済動向について四半期ごとに『おおさか経済の動き』としてとりまとめています。このたび、平成 24 年の年間の経済動向を『平成 24 年の大阪経済の動き』として発行しました。その概要は以下のとおりです。

24 年の大阪経済は、復興需要やエコカー補助金による自動車生産の拡大などにより国内景気が回復する中で前半は緩やかな持ち直しが続いた。しかし、夏には国内景気の落ち込みに伴い、大阪経済も一服感がみられた。消費は、百貨店の増床・開業効果などによる売上の拡大があったものの、テレビ等の家電販売額低迷は続き、自動車販売についても年後半は弱含みで推移した。輸出は海外景気の減速と円相場の高止まりにより弱い動きとなったが、アメリカ向け輸出は底堅く、年末には円高是正が進んだことから、下げ止まりの兆しがみられた。また、生産面は弱い動きが続いたが、年末にかけ在庫調整が進み下げ止まりとなった。一方、雇用は、失業率がやや悪化した。有効求人倍率は緩やかに改善していたものの、年末にかけて頭打ちとなった。

以上から、府内企業の業況は、前半に緩やかな改善がみられたものの、夏場に落ち込みがみられ、総じて見れば足踏み状態であった。

【目次】

第 1 章 足踏み状態にあった大阪経済

1. 景気は緩やかな改善基調にあるも、夏に一服
2. 需要面では、個人消費、輸出ともに弱含みで推移
3. 産業活動は、年末に下げ止まり
4. 企業の景況は足踏み状態に

第 2 章 平成 24 年の経済動向

第 1 節 需要は弱含みで推移

1. 個人消費は弱含みの動きが続く
2. 住宅投資は年後半に持ち直しの動きが弱まった
3. 民間設備投資は横ばい
4. 輸出は減少、輸入は引き続き増加
5. 観光は緩やかな回復の後、横ばいに

第 2 節 産業活動は足踏みが続く

1. 生産活動は、弱含みで推移
2. 雇用の改善傾向に一服感
3. 物価は低下
4. 企業倒産件数は 3 年連続の減少

第 3 章 平成 24 年の企業動向

第 1 節 前半まで改善傾向にあった業況は、後半から失速

1. 企業の業況判断は、弱含みで推移
2. 資金繰りは改善基調が続くも、営業利益は足踏み状態
3. 雇用不足感が強まる

第 2 節 中小企業の業況は弱含みが続く

1. 出荷・売上高は弱含みが続き、年後半に D I はやや低下
2. 受注・販売は緩やかに持ち直した後、年央以降、弱含み